

市報

やまぐち 10月15日

昭和61年

No. 942

交通事故状況

種別	区分	9月		累計	
		本年	昨年	本年	昨年
発生件数		44	416	341	
死亡者		3	10	12	
重傷者		0	29	35	
軽傷者		47	459	378	

発行 山口市役所
編集 企画部広報課
印刷 (株)丸二商行



身近なゴミの問題などを勉強した
動くふるさと教室
(9月25日、菅内の不燃物処分場)

ゴミの減量化に ご協力を

～清掃工場から SOS～

山口市と周辺三町のゴミを
処理している清掃工場(大内)
は、今パンク寸前。日曜日を
返上してのフル稼働で処理に
当たつても、翌日への繰り越
しが二百ばかり二百五十も
出ている状態です。

市ではコンボスターのあつ
せんなどで、ゴミの減量化に
協力してもらっていますが、
最近、めつきりチリ紙交換の
声を聞かなくなり、家庭でも
て余した古新聞紙や古雑誌な
どが生ゴミと一緒に出され、
ゴミの量が著しく増加してい
ます。自家処理できるものは
できるだけ処理し、また資源
の有効利用を考えるなど、ゴ
ミの減量化にご協力をお願
いします。

なお、増設中の焼却炉一基
(六十シ一日)が来年四月から
稼動できるようになり、この
問題も解消されます。

(3)

△市長賞 工芸 大和穂(宮野)
 十月三日から五日まで市民会館で開かれました。
 今年は、日本画、洋画、工芸、書、写真、デザインの六部門に百八十七点の出品があり、審査の結果、次の二十一人のかたが入賞されました。(敬称略)

△市議会議長賞 洋画 石原隆
 関谷憲治(穂積町)、洋画 大花(嘉川) □教育長賞 写真 池田剛(円政寺) □教育委員会賞 日本画 町田英子(大内)、日本画 小林美代子(宮島町)、洋画 仁科順子(平川)、洋画 福井敦朗(大内)、工芸 左野律子(折本丁目)、書 岡本絢子(陶)、写真 永峰昇(平川) □文化協会長賞 写真 谷宏(大内)、工芸 近藤守(天王寺) □市議会議長賞 洋画 石原隆
 市長賞に 大和穂さん

第29回市美術展覧会 力作ぞろいの170点



市長賞に輝いた大和穂さんの作品「白萩黒彩鉢」
 今回出品された部門別点数は次のとおりです。カッコ内の数字は、展示された点数です。

過去最多の59点

水道事業
自主交渉による労使紛争
及び格差是正の早期解決

水道局の労使紛争につきましては、管理者において鋭意解決に努力をいたしておりますが、その概要是次のとおりであります。

六月二十四日以降、団体交渉が開かれない状態の中で、組合側は七月三日、地労委に対し、「人効完全実施、期末勤勉手当

十二日地労委から、組合側申請に向けて折衝を続けてまいりましたが、団体交渉を開くに至らない状況であります。

そのような状況の中で、九月

一方、七月二十日の地労委の

勧告を受けまして、局といたし

ましても鋭意、団体交渉の実施

に向けた折衝を続けてまいりま

したが、団体交渉を開くに至ら

ない状況であります。

そのような状況の中で、九月

十二日地労委から、組合側申請

のものについては打切りの通知

があり、また、局側申請のもの

が開かれます。

六月二十四日以降、団体交渉

が開かれます。

近未来の暮らしを体験

ニューメディアフェア'86

パンプローナ市と国際通話



会場に設置されたキャブテン端末機を操作し、興味深く画面に見入る市民



姉妹都市バ市からのメッセージを受ける堀市長

十月十九日からの山口地区キャブテンサービス開始を前に、「ニューメディアフェア'86」が、九月二十六日から三日間、県体育館で開かれました。テレビ会議や電話会議などの実演をはじめ、「街は今」のコーナーに設置されたキャブテンシステムの端末機を実際に操作するなど、会場を訪れた多くの市民は、ニューメディアによつて変わる暮らしを体験しました。

また、KDDコーナーでは多くの市民を前に、堀市長が国際電話で、姉妹都市パンプローナ市駐在の現地連絡員村松文子さんやバ市へ移住された王子尚三さんと話をしました。通話では、バ市のバルドウー市長からの「兄弟の契りを結んでいる両市は、これからも友情と信頼を通じて、ますます交流を深めていきましょう。(中略)山口のみなさんごきげんよう」というメッセージが伝えられました。

これに答えて堀市長も「山口市とバ市との子供達が姉妹都市としての友好の絆を永遠に続けてくれることを念願します」とメッセージを送りました。

バ市では、来年五月に日本の産業を紹介する展覧会も開かれます。そこで、距離を乗り越えての交流が深まります。



佐山婦人消防操法大会が優勝

九月二十六日、県消防学校で開かれた山口県婦人消防操法大会に山口市代表として出場した

佐山婦人消防隊(松永千鶴子隊長・隊員五人)が見事優勝し、

来年十月に開催される全国大会へ出場することになりました。

同隊が優勝したのは、軽可搬ポンプの放水で約七秒離れた的を落とし、その動作の正確さと時間とで争われる基本操法競技です。

初期消火と防火意識の高揚などを目的に消防隊を結成して以来四年目の快挙に、隊員たちは大喜びでした。

隊員の半数は勤めていて、全員揃って練習する機会は少ないのですが、全国大会でもがんばって是非優勝して欲しいもののです。

就職シーズン本番 地元雇用の場が拡大

十月一日、来春高校卒業予定者の就職試験が解禁になり、就職シーズンも本番。

最近では、大学卒業者のUターンなど地元山口への就職希望者が多いようですが、就職はなかなか厳しいようです。

しかし一方では、近江電線をはじめ、昨年の山口エヌエフ電子とムや日本ビジネスコンサルタンクト、今年の山口エヌエフ電子と山口市への企業進出が相次いでいます。

これらハイテク産業や県流通センターに立地した企業十数社

などにより、地元雇用の場も広がってきてています。



同和問題を考え

これまでの学習と、日常生活で触れ合い励ましまして生きている近所の人達と一緒に、声をかけ合って続けることによる成果だとともえています。

もちろん、山口市においても、企業・職場・官公庁・社

会教育関係団体等の指導者養成の講座や、市民同和教育研修講座を開設し、また公民館を拠点に各種学級や講座により、青年、婦人、成人、高齢者等を対象に計画的、継続的に同和教育を進めており、多くの市民の皆さんにご参加をいただいています。

さらに、自主的に

同和問題のすみやかな解決

十五年の山口県民の「同和問題」に関する意識調査をみますと、「同和地区」の起源について「政治的起源説」と正しく答えた人は、一三・七%、全然回答しなかつた人が、実に、七二・三%もありました。

同和教育に町をあげて、真剣に取り組んでおられる周東町の、昭和六十一年三月の町

同和問題を考え



民意調査結果によると、同和問題の起源について正しく回答した人は、八二・五%と驚異的な値を示しています。

これは、同和問題の学習をするのみの学習とし、日常生活で触れ合い励ましまして生きている近所の人達と一緒に、声をかけ合って続けることによる成果だとともえています。

もちろん、山口市においても、企業・職場・官公庁・社

地域ぐるみの学習

自治会やそれぞれの班で学習が行われ、講座で学習された内容や立場が生かされること大切です。

知識的な認識が高まって来ている現在ですが、日常生活の中では、時には人を見下したりする心、ひそんでいる心理的差別が見られることがあります。

地域ぐるみの学習によって力強く日々自己の姿容について

